



Sun SPARC Enterprise™ M3000 サーバプロダクトノート

XCP 1090 版

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 821-0675-10
2009 年 8 月, Revision A

コメントの送付: <http://docs.sun.com> (Feedback[+] リンクをクリック)

Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. および富士通株式会社 〒 211-8588 神奈川県川崎市中原区上小田中 4-1-1, Japan. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。これらの製品、技術、および本書に対して Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社が有する知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品および技術は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。富士通株式会社と Sun Microsystems, Inc. およびそのライセンサーの書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものでもありません。本書は、富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者から富士通株式会社および / または Sun Microsystems, Inc. へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、お客様からのお申し込みに応じて入手可能です。富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに由来しています。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、Netra、Solaris、Sun Ray、Answerbook2、docs.sun.com、OpenBoot、および Sun Fire は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. または関連会社の商標または登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. および富士通株式会社が SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、Sun Microsystems, Inc. が自社のユーザーおよびライセンス



実施権者向けに開発しました。Sun Microsystems, Inc. は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。Sun Microsystems, Inc. は Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装しているかまたは Sun の書面によるライセンス契約を満たす Sun Microsystems, Inc. のライセンス実施権者にも適用されます。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Sun Microsystems, Inc. and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項: 本書または本書に記述されている製品や技術に関して富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限りです。このような契約で明示的に規定された保証を除き、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. およびそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、現状のまま提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われぬものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のもとの第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われぬものとします。

Contents

はじめに vii

1. Sun SPARC Enterprise M3000 サーバプロダクトノート XCP 1090 版 1

新しい機能 1

 エアフローインディケータ 2

 消費電力モニタ機能 2

サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン 3

Solaris パッチ情報 4

 Solaris 10 5/08 のパッチ 4

 Emulex PCI Express (PCIe) カードのパッチ 5

 Solaris パッチの入手方法 5

XCP 1090 へのアップグレード 6

 XSCF ファームウェアのリセット 6

機能の問題と制限事項 6

 消費電力モニタ機能に関する制限事項 6

 一般的な機能の問題と制限事項 6

追加情報および手順 8

 システムへのログイン 8

 XSCF Web ブラウザの問題 8

 WAN ブートサーバからのブート 9

Sun Java Enterprise System 9

▼ Web Console SMF サービスの有効化 10

単一の J4200 JBOD ストレージアレイから複数の OPL システムのブート 10

2. ハードウェアに関する情報 11

200V 電源を使用する場合の注意事項 11

複数の SAS ターゲットにつながる SAS デバイスのオンボードの外部 SAS インターフェースへの接続は非サポート 11

ハードウェアドキュメントの変更予定 12

電源コードとコネクタ形状 12

『SPARC Enterprise M3000 サーバサービスマニュアル』の変更予定 13

XSCF コマンドを使用した電源切断 14

3. ソフトウェアに関する情報 15

XCP に関する問題と回避方法 15

Solaris OS に関する問題と回避方法 17

サポートされているすべてのリリースの Solaris OS に関する問題 17

Solaris 10 5/09 で修正された Solaris の問題 19

Solaris 10 10/08 で修正された Solaris の問題 20

ドキュメントの変更予定 21

はじめに

このプロダクトノートには、Sun SPARC Enterprise™ M3000 サーバのハードウェア、ソフトウェア、およびドキュメントに関する重要な最新情報が記載されています。

UNIX コマンドの使用

このドキュメントでは、システムのシャットダウン、システムのブート、デバイスの設定など、UNIX® の基本的なコマンドおよび手順については説明しません。これらの情報については、次のドキュメントを参照してください。

- システム付属のソフトウェアドキュメント
- Solaris オペレーティングシステムのドキュメント（次のウェブサイトを参照）：

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/solaris#hic>

プロンプト

| シェル | プロンプト |
|-----------------------------------|----------------------|
| C シェル | <i>machine-name%</i> |
| C シェル (スーパーユーザー) | <i>machine-name#</i> |
| Bourne シェルおよび Korn シェル | \$ |
| Bourne シェルおよび Korn シェル (スーパーユーザー) | # |
| XSCF シェル | XSCF> |

関連ドキュメント

本体装置の設置、管理、および使用の手順は、SPARC Enterprise M3000 サーバのドキュメントセットに記載されています。このドキュメントセットは、次のウェブサイトから入手できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.m3k#hic>

注 - このプロダクトノートに示す情報は、SPARC Enterprise M3000 サーバのドキュメントセットに記載されている情報よりも優先されます。

ドキュメント、サポート、およびトレーニング

| Sun の役割 | URL |
|---------|---|
| ドキュメント | http://www.sun.com/documentation/ |
| サポート | http://www.sun.com/support/ |
| トレーニング | http://www.sun.com/training/ |

サードパーティーのウェブサイト

Sun は、このドキュメントに記載されたサードパーティーのウェブサイトが利用可能かどうかについては責任を負いません。これらのサイトおよびリソースから入手できるすべての情報、広告、製品、およびその他の資料について、Sun は保証を行わず、責任および義務を負いません。これらのサイトおよびリソースから入手できるすべての情報、物品、またはサービスに関して、それらを使用または信頼した結果発生した、実際のまたは主張された損害および損失について、Sun は責任および義務を負いません。

ご意見をお寄せください

Sun では、ドキュメントの品質向上のために、お客様からのコメントやご意見をお待ちしています。ご意見がありましたら、次の URL にアクセスしてお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback/>

ご意見とともに、ドキュメントのタイトルと Part No. をお知らせください。

『Sun SPARC Enterprise M3000 サーバプロダクトノート (XCP 1090 版)』 (Part No.: 821-0675-10)

第 1 章

Sun SPARC Enterprise M3000 サー バプロダクトノート XCP 1090 版

この章では、次の内容について説明します。

- 「新しい機能」 (P.1)
- 「サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン」 (P.3)
- 「Solaris パッチ情報」 (P.4)
- 「Solaris パッチの入手方法」 (P.5)
- 「XCP 1090 へのアップグレード」 (P.6)
- 「機能の問題と制限事項」 (P.6)
- 「追加情報および手順」 (P.8)

新しい機能

- XCP 1090 で、新しい XSCF コマンド `showdateoffset(8)` がサポートされるようになりました。
詳細については、オンラインのマニュアルページまたはリファレンスマニュアルを参照してください。
- XCP 1082 で、エアフローインディケータがサポートされるようになりました。
詳細については、「[エアフローインディケータ](#)」 (P.2) を参照してください。
- XCP 1081 で、消費電力モニタ機能が追加されました。
詳細については、「[消費電力モニタ機能](#)」 (P.2) を参照してください。

エアフローインディケータ

エアフローインディケータによって、SPARC Enterprise M3000 サーバの動作中の排気量を確認できます。

エアフローインディケータの値は、本体装置からの排気量を示します。この値には、周辺装置の排気量は含まれません。

排気量を表示するには、`showenvironment air` コマンドを使用します。

```
XSCF> showenvironment air
Estimated Air Flow:63CMH
```

注 - エアフローモニタの測定値は、参照専用です。

`showenvironment(8)` コマンドの詳細については、マニュアルページを参照してください。SPARC Enterprise M3000 サーバの設置の詳細については、『SPARC Enterprise M3000 サーバ設置計画マニュアル』および『SPARC Enterprise M3000 サーバインストールガイド』を参照してください。

SNMP エージェント機能を使用して排気データを取得することもできます。SNMP エージェント機能を使用して排気データを取得するには、最新の XSCF 拡張 MIB 定義ファイルを SNMP マネージャにインストールします。XSCF 拡張 MIB 定義ファイルの詳細については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

消費電力モニタ機能

消費電力モニタ機能によって、SPARC Enterprise M3000 サーバの動作中の消費電力量を確認できます。

消費電力を表示するには、`showenvironment power` コマンドを使用します。

```
XSCF> showenvironment power
Permitted AC power consumption:470W
Actual AC power consumption:450W
```

`showenvironment(8)` コマンドの詳細については、マニュアルページを参照してください。SPARC Enterprise M3000 サーバの設置の詳細については、『SPARC Enterprise M3000 サーバ設置計画マニュアル』を参照してください。

注 - 消費電力モニタの測定値は、参照専用です。本体装置の消費電力値は、使用している電源、CPU の種類、システム設定、またはシステム負荷などの条件によって変わります。

SNMP エージェント機能を使用して消費電力データを取得することもできます。SNMP エージェント機能を使用して消費電力データを取得するには、最新の XSCF 拡張 MIB 定義ファイルを SNMP マネージャにインストールします。XSCF 拡張 MIB 定義ファイルの詳細については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

電源システムで次のような変化が発生する状況では、1 分間待ってからもう一度値を確認します。

- 本体装置の電源投入中または電源切断中、あるいは電源投入または電源切断の完了後
- 電源ユニットの活性交換中、あるいは活性交換の完了後

サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン

新しい SPARC Enterprise M3000 には、Solaris オペレーティングシステムおよび Sun Java™ Enterprise System ソフトウェアがプレインストールされています。

次の表に、本リリースでサポートされているファームウェアおよびオペレーティングシステム (OS) のバージョンを示します。

表 1-1 M3000 サーバに使用するファームウェアおよびソフトウェアの最小バージョン

| ファームウェアおよびオペレーティングシステム | バージョン |
|----------------------------|------------------------------|
| XSCF Control Package (XCP) | |
| エアフローモニタ機能 | XCP 1082 |
| 消費電力モニタ機能 | XCP 1081 |
| Solaris オペレーティングシステム | Solaris 10 10/08 |
| | Solaris 10 5/08 (必須パッチ適用済み)* |

* パッチについては、「[Solaris パッチ情報](#)」(P.4) を参照してください。
最新パッチリビジョンがあるかどうか、<http://sunsolve.sun.com> を確認してください。

XSCF Web は、多くのウェブブラウザでサポートされます。このうち、XSCF Web の動作することが確認されているウェブブラウザは、表 1-2 のとおりです。

表 1-2 確認されたウェブブラウザのバージョン

| ウェブブラウザ | バージョン |
|------------------------------|-------------|
| Firefox | 2.0 および 3.0 |
| Microsoft® Internet Explorer | 6.0 および 7.0 |

Solaris パッチ情報

この項では、M3000 サーバの必須パッチを示します。

パッチ要件および特別なインストール手順については、必ずパッチの README を参照してください。

この項に示すパッチ ID は、インストールが必要なパッチの最小レベルを表しています。2 桁のサフィックスは、パッチの最小リビジョンレベルを表しています。

最新パッチリビジョンがあるかどうか、<http://sunsolve.sun.com> を確認してください。

パッチは、記載されている順序で適用します。その他の Solaris OS の情報については、「Solaris OS に関する問題と回避方法」(P.17) を参照してください。

Solaris 10 5/08 のパッチ

Solaris 10 5/08 を実行する M3000 サーバすべてに、次のパッチが必要です。これらのパッチは、記載されている順序でインストールする必要があります。

1. 119254-59 (patchadd パッチ) - 次に進む前にシステムをリブートしてください。
2. 138866-01 - 次に進む前にシングルユーザーモードにリブートしてください。
3. 137137-09 (KU パッチ) - 次に進む前にシステムをリブートしてください。
4. 138504-04 SunVTS7.0PS3

Emulex PCI Express (PCIe) カードのパッチ

次に示す Emulex カードは、パッチ 120222-27 以降で提供されるドライバが必要です。

- XSEFC402AF Sun StorageTek™ Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fiber Channel PCIe HBA
- XSEFC401AF Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fiber Channel PCIeHBA

Solaris パッチの入手方法

Sunsm Connection Update Manager を使用して、必要に応じてパッチを再インストールするか、または最新の必須パッチのセットでシステムをアップデートできます。Sun Connection Update Manager の詳細については、次の URL にある『Sun Update Connection System Administration Guide』を参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/updconn.sys>

または、次のウェブサイトアクセスしてください。

<http://wikis.sun.com/display/SunConnection/Update+Manager>

インストール情報と README ファイルは、パッチのダウンロードに含まれていません。

システムを登録し、Sun Connection Update Manager を使用して最新の Solaris OS パッチを入手するには、次の 2 つの方法があります。

- Update Manager GUI を使用したパッチの入手
詳細については、前述のリンクにある Sun Update Connection のドキュメントを参照してください。
- `smpatch(1M)` コマンドを使用したパッチの入手
詳細については、`smpatch(1M)` のマニュアルページ、または使用している Solaris のバージョンの一連のリファレンスマニュアルを参照してください。

XCP 1090 へのアップグレード

ファームウェアのアップグレードについては、『Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

XSCF ファームウェアのリセット

XCP ファームウェアをアップデートした後、`rebootxscf(8)` コマンドを使用して XSCF をリセットします。

機能の問題と制限事項

ここでは、本リリース時点でわかっている問題および制限事項について説明します。

消費電力モニタ機能に関する制限事項

以下の状況では、`showenvironment` コマンドの出力および XSCF Web に MIB 情報の電力消費量が正しく表示されないことがあります。その場合は、1 分間待ってからもう一度値を確認します。

- 本体装置の電源投入中または電源切断中、あるいは電源投入または電源切断の完了後しばらくの間
- 電源ユニットの活性交換中、あるいは活性交換の完了後しばらくの間

一般的な機能の問題と制限事項

注 - 分電盤のメインラインスイッチまたはサーキットブレーカーによってシステムの電源を再投入する場合、電源を切断した後に少なくとも 30 秒待ってから、電源を投入してください。

- 排気量に関して表示される情報は、SPARC Enterprise サーバのみの情報です。周辺装置の排気量は表示されません。

- 次の語はシステムに予約されているため、ユーザーアカウント名に使用することはできません。root、bin、daemon、adm、operator、nobody、sshd、rpc、rpcuser、ldap、apache、ntp、admin、および default。
- Service Processor (SP) を Network Time Protocol (NTP) サーバとして使用しないでください。独立した NTP サーバを使用することによって、SP とドメインで時刻の一貫性を保つ上で最適な信頼性を得られます。NTP の詳細については、Sun Blueprint のマニュアル『Using NTP to Control and Synchronize System Clocks』 (<http://www.sun.com/blueprints/0701/NTP.pdf>) を参照してください。
- 外部電源制御装置の外部電源制御インターフェースを使用するとき、次の通知信号はサポートされていません。
 - OS パニックまたは本体装置ハードウェア異常信号 (*CPUN/RTNU)
 - 本体装置ハードウェア異常信号 (電源異常、温度異常、ファン異常) (*ALARM)
- XSCF を使用し、XCP をインポートまたはファームウェアをアップデートする場合、ウェブブラウザ上に Web session ID error が表示されることがあります。また、Autologout 設定でタイムアウト時間を 30 分以上で指定すると、Internal Server Error が表示されることがあります。現在のブラウザを閉じてから、新しいブラウザを開いて、XSCF Web に接続し直してください。
- XSCF Web を使用するとき、ポップアップブロック設定を無効にし、ブラウザに検索ツールなどのプラグインが組み込まれている場合はプラグインを削除してください。
- XSCF-LAN はオートネゴシエーションに対応しています。XSCF-LAN と接続するネットワーク機器は、オートネゴシエーションモードに設定してください。この設定を行わず、XSCF-LAN と全二重固定で設定されているネットワーク機器を接続した場合、IEEE802.3 の規約によって、XSCF-LAN は半二重モードで通信します。これにより、ネットワークの通信速度が遅くなったり、通信異常が発生したりする場合があります。

追加情報および手順

ここでは、本リリース時点でわかっている追加の問題および制限事項について説明します。

システムへのログイン

標準的なデフォルトのログインのほかに、M3000 サーバは、`admin` と呼ばれる一時的なログインが可能な状態で出荷されます。これにより、シリアルポートを介したリモート初期ログインが可能になります。`admin` ユーザの権限は `useradm` 限定であり、変更はできません。標準の UNIX ユーザー名 / パスワード認証または SSH 公開鍵認証を使用して一時 `admin` としてログインすることはできません。一時 `admin` アカウントにパスワードはなく、またパスワードをこのアカウント用に追加することもできません。

デフォルトのユーザーとしてログインした後や、一時 `admin` としてのログインにより有効なパスワードと権限を与えられた最初のユーザーが登録された後には、一時 `admin` アカウントは無効となります。

デフォルトのログインが使用される前に一時 `admin` としてログインできない場合には、`showuser -l` コマンドを実行することにより、他の誰かが上記の操作を実行していないか確認してください。

XSCF Web ブラウザの問題

XSCF Web ブラウザインターフェースでは、出力が切り捨てられる場合があります。たとえば、`snapshot` 画面で SSH を選択したとき、`Host`、`Directory`、`ID`、`Password` の入力可能文字数が XSCF シェルでの入力可能文字数と一致しません。[Panic Log] ページで、パニックメッセージが最後の 50 行分しか表示されません (CR 6756052)。ブラウザインターフェースで、監査以外のログサイズ制限が最後の 2 桁しか表示されません (CR 6742502)。

出力全体を表示するには、XSCF Shell コマンドラインインターフェース (CLI) を使用してください。

WAN ブートサーバからのブート

WAN ブートインストール方法を使用すると、HTTP を使用してワイドエリアネットワーク (WAN) 経由でソフトウェアのブートとインストールを行うことができます。WAN ブートサーバから M3000 サーバをブートできるようにするには、適切な実行可能ファイル wanboot をインストールし、OpenBoot™ バージョン 4.24 以降を使用して、必要なハードウェアがサポートされるようにする必要があります。

WAN ブートサーバの詳細については、使用している Solaris 10 OS のバージョンに対応する『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』を参照してください。Solaris 10 OS のドキュメントは次のウェブサイトにあります。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/solaris.10>

実行可能ファイル wanboot をアップグレードしないと、本体装置でパニックが発生し、次のようなメッセージが表示されます。

```
krtld: load_exec: fail to expand cpu/$CPU
krtld: error during initial load/link phase
panic - boot: exitto64 returned from client program
```

Sun Java Enterprise System

Sun Java™ Enterprise System ソフトウェアは、ソフトウェア投資を最大限に活用するソフトウェアサービスとライフサイクルサービスの包括的なセットです。ソフトウェアおよびインストール手順は、次のウェブアドレスにあります。

<http://www.sun.com/software/javaenterprisesystem/index.jsp>

ソフトウェアには、ご使用の本体装置に必須のパッチが含まれていない場合があります。ソフトウェアのインストール後、システムに必須パッチが存在するかどうかを確認する手順については、「Solaris パッチ情報」(P4) を参照してください。

概要およびドキュメントについては、次のウェブサイトにアクセスしてください。

<http://www.sun.com/service/javaes/index.xml>

注 - Java Enterprise System 5 Update 1 をシステムにインストールすることによって発生する問題 (CR 6644798) に対処するために、Web Console SMF サービスを有効にする必要が生じる場合があります。

▼ Web Console SMF サービスの有効化

- 端末に root としてログインし、次のように入力します。

```
# svcadm enable svc:/system/webconsole:console
```

単一の J4200 JBOD ストレージアレイから複数の OPL システムのブート

Sun Storage J4200 SAS JBOD アレイには、汎用 SAS コネクタが 6 個あります。FW バージョン 3A32 以降では、各コネクタを別々の SAS イニシエータに接続できるため、最大 6 台のシステムをアレイに接続できます。各システムは、アレイ上の個別のディスクをブートデバイスとして使用できます。J4200 アレイにはディスクが 12 個あるため、各ブートデバイスをミラーリングして信頼性を向上させることができます。

J4200 SAS アレイを複数のゾーンに設定し、よりセキュリティの高い環境を構築できます。

関連情報

- Sun StorageTek Common Array Manager Software のドキュメント (<http://docs.sun.com/app/docs/prod/stor.armgr#hic>)
特に、次のドキュメントを参照してください。
 - 『Sun StorageTek Common Array Manager ソフトウェアリリースノート 6.4.1』
 - 『Sun StorageTek Common Array Manager ユーザーズガイドオープンシステム用』

第 2 章

ハードウェアに関する情報

この章では、SPARC Enterprise M3000 サーバのハードウェアに関する特記事項や問題点について説明します。

- 「200V 電源を使用する場合の注意事項」 (P.11)
- 「複数の SAS ターゲットにつながる SAS デバイスのオンボードの外部 SAS インターフェースへの接続は非サポート」 (P.11)
- 「ハードウェアドキュメントの変更予定」 (P.12)
- 「XSCF コマンドを使用した電源切断」 (P.14)

200V 電源を使用する場合の注意事項

B 型プラグを持つ本体装置では、本体装置外に 15A の過電流保護装置があることを確認してください。この装置がない場合は、ノーヒューズブレーカー (NFB) やヒューズなどを使用して、15A の過電流保護を行ってください。B 型プラグとは、平行 2 極接地極付プラグ以外の NEMA L6-30、L6-20、L6-15、L5-15などを指します。

複数の SAS ターゲットにつながる SAS デバイスのオンボードの外部 SAS インターフェースへの接続は非サポート

複数の SAS ターゲットにつながる SAS デバイスをオンボードの外部 SAS インターフェースに接続することは、サポートされていません。代わりに、Sun StorageTek Host Bus Adaptor (SG-XPCIE8SAS-E-Z) を使用してください。 [6765239]

ハードウェアドキュメントの変更予定

この項では、ドキュメントセットの出版後に判明したハードウェアに関する最新情報および変更予定を示します。

表 2-1 に、ドキュメントの変更予定を示します。

表 2-1 ハードウェアドキュメントの変更予定

| タイトル | ページ | 変更内容 |
|---------------------------------------|-----|---|
| 『SPARC Enterprise M3000 サーバ設置計画マニュアル』 | 2-4 | 「表 2.4 電源コードとコネクタ形状」 香港の電源コードタイプについて、「IEC 60320 C14」と記載されていますが、正しくは「BS1363」です。 以下の注釈を追加します。 注 - B 型プラグを持つ本体装置では、本体装置外に 15A の過電流保護装置があることを確認してください。この装置がない場合は、ノーヒューズブレーカー（NFB）やヒューズなどを使用して、15A の過電流保護を行ってください。B 型プラグとは、平行 2 極接地極付プラグ以外の NEMA L6-30、L6-20、L6-15、L5-15などを指します。 |
| 『SPARC Enterprise M3000 サーバインストールガイド』 | 2-4 | 「表 2.4 電源コードとコネクタ形状」 香港の電源コードタイプについて、「IEC 60320 C14」と記載されていますが、正しくは「BS1363」です。 以下の注釈を追加します。 注 - B 型プラグを持つ本体装置では、本体装置外に 15A の過電流保護装置があることを確認してください。この装置がない場合は、ノーヒューズブレーカー（NFB）やヒューズなどを使用して、15A の過電流保護を行ってください。B 型プラグとは、平行 2 極接地極付プラグ以外の NEMA L6-30、L6-20、L6-15、L5-15などを指します。 |

電源コードとコネクタ形状

次の情報は、『SPARC Enterprise M3000 サーバ設置計画マニュアル』および『SPARC Enterprise M3000 サーバインストールガイド』の情報よりも優先されます。

電源コードとコネクタ形状に関する訂正済みの表は次のとおりで、両方のドキュメントの表 2.4 に対応しています。

表 2.4 電源コードとコネクタ形状

| 地域 | 電源コードのタイプ | コネクタ形状 |
|----|----------------------|---------------|
| 日本 | NEMA 5-15 125V15A | IEC 60320 C13 |
| 北米 | NEMA L6-15 250V15A | |
| 中国 | GB 2099.1 250V15A | |
| 香港 | BS1363 250V15A | |
| 韓国 | IEC60320-C14 250V15A | |

注 - B 型プラグを持つ本体装置では、本体装置外に 15A の過電流保護装置があることを確認してください。この装置がない場合は、ノーヒューズブレーカー (NFB) やヒューズなどを使用して、15A の過電流保護を行ってください。B 型プラグとは、平行 2 極接地極付プラグ以外の NEMA L6-30、L6-20、L6-15、L5-15などを指します。

『SPARC Enterprise M3000 サーバサービスマニュアル』の変更予定

次の情報は、『SPARC Enterprise M3000 サーバサービスマニュアル』の情報よりも優先されます。

XSCF コマンドを使用した電源切断

ここでは、「4.5.1.1 XSCF コマンドを使用した電源切断」を変更します。

1. 本体装置の電源を切断することをユーザーに通知します。
2. 必要に応じて、システムファイルとデータをバックアップします。
3. XSCF シェルにログインし、`poweroff` コマンドを入力します。

```
XSCF> poweroff -a
```

`poweroff` コマンドを使用すると、次の処理が実行されます。

- Solaris OS が完全にシャットダウンします。
- 本体装置の電源が切断されて、本体装置がスタンバイモードになります（XSCF ユニットと1つのファンは電源が投入されたままになります）。

詳細については、使用している本体装置の『XSCF リファレンスマニュアル』を参照してください。



注意 - 電源コードを抜かないと電氣的故障が発生する可能性があります。本体装置の電源を完全に切断するには、すべての電源コードを抜く必要があります。

第 3 章

ソフトウェアに関する情報

この章では、特定のソフトウェアとファームウェアの問題とその回避方法について説明します。パッチを入手する方法、およびこれらの問題を修正するパッチが入手可能かどうかを確認する方法については、次のウェブサイトアクセスしてください。

<http://sunsolve.sun.com>

この章では、次の内容について説明します。

- 「XCP に関する問題と回避方法」 (P.15)
- 「Solaris OS に関する問題と回避方法」 (P.17)
- 「ドキュメントの変更予定」 (P.21)

XCP に関する問題と回避方法

表 3-1 に、XCP の問題と実行可能な回避方法を示します。

表 3-1 XCP の問題と回避方法 (1 / 2)

| ID | 説明 | 回避方法 |
|---------|--|--|
| 6741770 | SNMP トラップホストの設定を変更しても、 setsnmp disable と setsnmp enable を実行するまで反映されません。 | 次のように SNMP の設定を変更します。 XSCF> setsnmp disable XSCF> setsnmp enable |

表 3-1 XCP の問題と回避方法 (2 / 2)

| ID | 説明 | 回避方法 |
|---------|---|---|
| 6760740 | <p>次のいずれかの状況が発生すると、コンソールエラーメッセージとコアダンプ (ereport.chassis.software.core) が表示される場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ユーザ ID に 65536 より大きい値を明示的に割り当てたローカルアカウントを作成した (adduser -u uid)。 UID の値が 65536 より大きい LDAP アカウントを使用した。 | <p>ユーザ ID (UID) の値が 100 ~ 60000 のユーザアカウントのみを使用してください。これは、XSCF コマンドの adduser に自動的に割り当てられている UID の範囲です。</p> |
| 6761674 | <p>OBP コマンドの probe-scsi-all を最初に行うときは、外部 SAS ポート経由で接続されたすべてのデバイスが表示されないことがあります。</p> | <p>probe-scsi-all コマンドを再実行してください。</p> |
| 6765468 | <p>長さが 3 文字以外のタイムゾーンが設定されている場合、XSCF Web の [Error Log] ページにエラーログを表示できません。また、XSCF Web の [Panic Log] ページおよび [IPL Message Log] ページの表で、日付が「---」と表示されます。</p> | <p>XSCF シェルで showlogs(8) コマンドを使用してください。</p> |
| 6789066 | <p>settimezone -c adddst コマンドで、タイムゾーンの短縮形およびサマータイムの名前を 8 文字以上に設定すると、showlogs コマンドの実行時にセグメンテーションの障害が発生し、エラーになります。</p> | <p>タイムゾーンの短縮形およびサマータイムの名前は、7 文字以下で指定してください。</p> |
| 6851009 | <p>スタンドアロン NTP サーバで特定の変更が発生した場合、NTP サーバへの XSCF 接続が切断され、XSCF がローカルクロックを代用します。この問題は、スタンドアロン NTP サーバ、つまり時刻をローカルクロック (LCL) と同期する NTP サーバで発生し、上位層の NTP サーバでは発生しません。この問題を引き起こすのは、次のような変更です。</p> <ul style="list-style-type: none"> NTP サーバをリポートする わずか 1 秒でも日付を修正する NTP サーバ層を変更する | <p>注 - 変更を行う前に、その変更がほかの NTP クライアントに影響しないかどうかを確認してください。</p> <p>XSCF LCL は 127.127.1.0 に設定されています。NTP サーバ上で、ローカルクロックの値が別の値になるよう NTP ホスト設定ファイル (/etc/inet/ntp.conf) を変更してください。ほかには次の ID が有効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 127.127.1.1 - 127.127.1.2 - 127.127.1.3 |

Solaris OS に関する問題と回避方法

この項では、Solaris OS に関する問題について説明します。表 3-2、表 3-3、および表 3-4 に、Solaris OS で発生する可能性のある問題を使用リリース別に示します。

サポートされているすべてのリリースの Solaris OS に関する問題

サポートされているリリースの Solaris OS で発生しうる問題を、表 3-2 に示します。

表 3-2 サポートされているすべてのリリースの Solaris OS に関する問題と回避方法 (1 / 3)

| CR ID | 説明 | 回避方法 |
|---------|---|--|
| 6531036 | boot net によるインストール後に、エラーメッセージ <code>network initialization failed</code> が繰り返し表示されます。 | 回避方法はありません。このメッセージは無視しても差し支えありません。 |
| 6532215 | ドメインのブート時に <code>volfs</code> や <code>dscp</code> サービスの起動が失敗することがあります。 | サービスを再起動してください。この問題を事前に回避する場合は、以下のコマンドを実行してください。 <pre># svccfg -s dscp setprop start/timeout_seconds=count: 300 # svccfg -s volfs setprop start/timeout_seconds=count: 300 # svcadm refresh dscp # svcadm refresh volfs</pre> |
| 6572827 | <code>prtdiag -v</code> コマンドで PCI バスのタイプが間違っって出力されます。PCI-X リーフデバイスが「PCI」、レガシー PCI デバイスが「UNKN」と表示されます。 | 回避方法はありません。 |

表 3-2 サポートされているすべてのリリースの Solaris OS に関する問題と回避方法 (2 / 3)

| CR ID | 説明 | 回避方法 |
|---------|---|--|
| 6660168 | <p>ドメイン上で <code>ubc.piowbeue-cpu</code> エラーが発生すると Solaris Fault Management <code>cpumem-diagnosis</code> モジュールが失敗し、FMA サービスが停止することがあります。これが発生すると、コンソールログに以下の例のように出力されます。</p> <pre>SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Fri Apr 4 21:41:57 PDT 2008 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: 2020642002, HOSTNAME: <hostname> SOURCE: fmd-self-diagnosis, REV: 1.0 EVENT-ID: 6b2e15d7-aa65-6bcc-bcb1- cb03a7dd77e3 DESC: A Solaris Fault Manager component has experienced an error that required the module to be disabled.Refer to http://sun.com/msg/FMD-8000-2K for more information. AUTO-RESPONSE: The module has been disabled.Events destined for the module will be saved for manual diagnosis. IMPACT: Automated diagnosis and response for subsequent events associated with this module will not occur. REC-ACTION: Use fmdump -v -u <EVENT- ID> to locate the module.Use fmadm reset <module> to reset the module</pre> | <p>fmd サービスが停止した場合は、復旧させるために、ドメイン上で以下のコマンドを実行してください。</p> <pre># svcadm clear fmd</pre> <p>その後、<code>cpumem-diagnosis</code> を再起動します。</p> <pre># fmadm restart cpumem-diagnosis</pre> |
| 6668237 | <p>DIMM を交換しても、該当する DIMM の故障がドメインから消去されません。</p> | <p>以下のコマンドを実行してください。</p> <pre># fmadm repair fmri uuid # fmadm rotate</pre> |

表 3-2 サポートされているすべてのリリースの Solaris OS に関する問題と回避方法 (3 / 3)

| CR ID | 説明 | 回避方法 |
|---------|---|---|
| 6679370 | システムのブート中、ホットプラグによる PCI ボックスの追加中、または DR による FMEMA の操作中に、次のメッセージがコンソールに出力されることがあります。 SUNW-MSG-ID: SUN4-8000-75, TYPE: Fault, VER: 1, SEVERITY: Critical ... DESC: A problem was detected in the PCIExpress subsystem. Refer to http://sun.com/msg/SUN4-8000-75 for more information. ... | /etc/system に次の行を追加し、ドメインをリポートしてください。 set pcie_expected_ce_mask = 0x2001 |
| 6723202 | M3000 サーバのオンボード SAS/LSI コントローラを使用してハードウェア RAID を構築するために、raidctl コマンドを使用することはできません。 raidctl コマンドは、ディスクやコントローラのステータスを確認するために使用したり、システムにインストールされている PCI ホストバスアダプター (HBA) で使用したりすることができます。 | 回避方法はありませぬ。 |
| 6745410 | システムをブートしないようにする kadb オプションが、ブートプログラムで無視されます。 | kadb の代わりに kmdb を使用してください。 |

Solaris 10 5/09 で修正された Solaris の問題

表 3-3 に、Solaris 10 5/09 OS で修正された問題を示します。Solaris 10 5/09 以前のサポートされているリリースでは、これらの問題が発生する場合があります。

表 3-3 Solaris 10 5/09 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (1 / 2)

| CR ID | 説明 | 回避方法 |
|---------|--|--|
| 6623226 | Solaris コマンドの lockstat(1M) または dtrace lockstat プロバイダで、システムパニックが発生することがあります。 | Solaris の lockstat(1M) コマンドおよび dtrace lockstat プロバイダを使用しないでください。 |
| 6680733 | 負荷が高い状況で、Sun Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP (QGC) および Sun Dual 10 GigE Fiber XFP Low Profile Adapter (XGF) NIC がパニックすることがあります。 | |

表 3-3 Solaris 10 5/09 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (2 / 2)

| CR ID | 説明 | 回避方法 |
|---------|---|--|
| 6689757 | 単一の XFP 光トランシーバまたは正しく取り付けられていない XFP 光トランシーバで Sun Dual 10 GigE Fiber XFP Low Profile Adapter (XGF) を使用すると、次のエラーがコンソールに表示されることがあります。 The XFP optical transceiver is broken or missing. | 両方の XFP 光トランシーバが筐体にしっかりと装着されていることを確認してください。 INTEL と Sun の XFP 光トランシーバを同じアダプターに混在させないでください。 ポートに XFP 光トランシーバが含まれていない場合、またはポートに XFP 光トランシーバが含まれていても未使用の場合は、ifconfig コマンドでポートを精査しないでください。 |
| 6725885 | cfgadm を使用すると、存在しない M3000 システムボード (SB1 から SB15) が表示されません。 | cfgadm の出力にある SB1 から SB15 は無視してください。 |

Solaris 10 10/08 で修正された Solaris の問題

表 3-4 に、Solaris 10 10/08 OS で修正された問題を示します。Solaris 10 5/08 を使用すると、これらの問題が発生する可能性があります。

表 3-4 Solaris 10 10/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (1 / 2)

| CR ID | 説明 | 回避方法 |
|---------|--|---|
| 6556742 | DR 時に DiskSuite が metadb を読めない場合、システムがパニックします。このバグの影響を受けるカードは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • SG-XPCIE2FC-QF4, 4-Gigabit PCI-e Dual-Port Fiber Channel HBA • SG-XPCIE1FC-QF4, 4-Gigabit PCI-e Single-Port Fiber Channel HBA • SG-XPCI2FC-QF4, 4-Gigabit PCI-X Dual-Port Fiber Channel HBA • SG-XPCI1FC-QF4, 4-Gigabit PCI-X Single-Port Fiber Channel HBA | metadb の複製コピーに別のホストバスアダプターを介してアクセス可能であれば、パニックは回避できます。 |
| 6608404 | X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP カードをホットプラグ操作で取り付けると、他のネットワークデバイスに障害が発生する場合があります。 | 回避方法はありません。 |
| 6720261 | ドメインで Solaris 10 5/08 OS が実行されている場合、通常の操作中にパニックまたはトラップすることがあります。 | 次のパラメータをシステム仕様ファイル (/etc/system) に設定します。 set heaplp_use_stlb=0 その後、ドメインをリブートしてください。 |

表 3-4 Solaris 10 10/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (2 / 2)

| CR ID | 説明 | 回避方法 |
|---------|--|--------------------------------------|
| 6737039 | <p>M3000 サーバの WAN ブートが、ブートプロセスの初期段階でのパニックにより断続的に失敗します。出力例：</p> <pre> ERROR: Last Trap: Fast Data Access MMU Miss %TL:1 %TT:68 %TPC:13aacc %TnPC:13aad0 %TSTATE:1605 %PSTATE:16 (IE:1 PRIV:1 PEF:1) DSFSR:4280804b (FV:1 OW:1 PR:1 E:1 TM:1 ASI:80 NC:1 BERR:1) DSFAR:fda6f000 DSFPAR:401020827000 D- TAG:6365206f66206000 </pre> | <p>シャーシの電源を切断して投入し、操作を再実行してください。</p> |

ドキュメントの変更予定

この項では、M3000 サーバのドキュメントセットの出版後に判明したソフトウェアに関する最新情報を示します。

表 3-5 に、ドキュメントの変更予定を示します。

表 3-5 ドキュメントの変更予定

| ドキュメント | 変更対象 | 変更内容 |
|--|--------------------------|---|
| 『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル』および XSCF マニュアルページ | setdualpowerfeed(8) コマンド | 次の説明を DESCRIPTION に追加します。 M4000/M5000 サーバでは、100V 電源で二系統受電モードを使用できません。 |
| | setupfru(8) コマンド | 次の説明を EXTENDED DESCRIPTION に追加します。 2つの CPUM を搭載している CMU を M8000/M9000 サーバ上で Quad-XSB モードに設定できます。ただし、CPUM とメモリが搭載されていない XSB に対しては、M8000/M9000 サーバは「configuration error」メッセージを生成します。 |
| | showdevices(8) コマンド | 次の情報を追加します。 DR 操作、続いてドメイン電源再投入を実行した後は、showdevices コマンドを実行する前に、devfsadm -v コマンドを実行する必要があります。このように実行しない場合、showdevices コマンドの結果が正しく表示されません。 |
| | showenvironment(8) コマンド | 次の情報を追加します。 power オペランドは M3000 サーバのみでサポートされており、air オペランドは M3000/M8000/M9000 サーバのみでサポートされています。 |